

政治研究結果報告書

— 政治研究助成 —

西暦 2024 年 (令和 6 年) 2 月 1 日

一般財団法人 櫻田 會
理事長 増田 勝彦 殿

報告者 明治大学教授教授
菊地 端夫

櫻田會政治研究助成による研究を下記のとおり実施しましたので、その結果について報告します。

※印の記入項目に関する貴會ホームページへの掲載についても同意いたします。

記

※研究の名称 (英語も記入) Research Theme

「Asian Association for Public Administration (AAPA:アジア行政学会) 研究大会の開催 (2023 年 12 月 16 日・17 日) によるアジア・太平洋地域における公共政策・行政・地方自治に関する研究動向と今後の展望の把握」
(Future Prospects of Public Policy, Public Administration and Local Government Studies in Asia-Pacific Region: From the host of Asian Association for Public Administration 2023 Tokyo Conference)

※英文抄録 (研究目的、経過、成果 250 words 以内) Abstract (Purpose, Process, Significance)

AAPA (Asian Association for Public Administration), an international academic association focusing on public Administration in the Asia-Pacific region, was established in 2010. Currently led by President Jiannan Wu from Shanghai Jiao Tong University, the AAPA conducted online meetings for the past three years due to the COVID-19 pandemic. Hosting a face-to-face AAPA conference in Japan can contribute to the internationalization of Japanese public administration research and enhance its presence. The AAPA 2023 Tokyo Conference, held at Meiji University's Surugadai Campus on December 16 and 17, addressed global public policy challenges, particularly climate change. The main theme, "Future Role and Shape of Government and Public Governance in the Era of Anthropocene: Call for New Research Agenda," aimed to explore solutions to societal issues like climate change, population decline, And aging, incorporating various technological and social innovations. The conference, marking a return to in-person gatherings after four years, successfully provided a platform to understand trends in future research and practices in addressing these challenges.

※研究の目的・研究方法・意義（和文 600 字以内）

アジア地域内の行政学、公共政策研究者の集まりである AAPA (Asian Association for Public Administration) は 2010 年に国際学会として設立された以降、毎年アジア各国で研究大会が開催されてきた。現在の会長は上海交通大学の Jiannan Wu 教授であり、コロナ禍の間の 3 年間は、オンラインで研究大会が行われてきた。広くアジア太平洋地域の行政学や公共政策の研究者が参加しアジア地域内における行政学研究をリードする同学会の日本での開催は、本邦の行政学関係者の研究のさらなる国際化に貢献するとともに、日本の行政学関係者のプレゼンスを高める重要な機会となる。新型コロナ禍や気候変動など、世界の公共政策が抱える課題を踏まえて、今回の大会の研究テーマを「Future Role and Shape of Government and Public Governance in the Era of Anthropocene: Call for New Research Agenda」と設定し、2023 年 12 月 16 日と 17 日に明治大学駿河台キャンパスで開催した。気候変動、少子化に伴う人口減少、高齢社会化などの様々な社会的課題への対処を、デジタル技術を始めとした様々な技術的・社会的なイノベーションによりどう乗り越えていくべきか、今後の研究の動向の把握を行うことを目的としていた。

※研究経過と結果の概要（以下の欄に 35 行以内(1500 字程度)にまとめる）

AAPA は、アジア地域内の行政学、公共政策研究者の集まりである Asian Forum on Public Management を前身とし、2010 年に Asian Association for Public Administration として正式に国際学会として設立され、第 1 回は明治大学で行われた。2021 年前後から、理事会メンバーより第 1 回の AAPA が日本開催でそれ以降日本での開催がないことにより、日本での開催、また 4 年ぶりの対面での開催可否について具体的な検討を求められるようになった。そのため、開催日数の短縮、報告論文の印刷を行わないなどを条件に実施することになった。大会研究テーマを「Future Role and Shape of Government and Public Governance in the Era of Anthropocene: Call for New Research Agenda」とし、Call for Paper を 2023 年 6 月末に公開したところ、8 月 15 日の締め切りまでに合計 130 本の報告申し込みがあり、実行委員会で査読を行い、100 本を報告可能として通知を行った。報告申し込み者の出身国はインドが最多でフィリピン、韓国、中国、日本、香港、台湾、インドネシア、ベトナム、タイ他と続いた。海外からの報告希望が全体の 8 割以上を占めた。最終的に提出されたフルペーパーは 65 本であった。登録参加者は合計で 176 名であり、そのうち全体の 25%を超える 46 名が大学院生であった。日本行政学会からの参加は 24 名であり、海外からの若手研究者の参加が目立った。4 年ぶりの対面開催となった学会当日は、会場のあちこちで数年ぶりの再会を喜ぶ姿が見られた。開会式では明治大学大六野耕作学長からの歓迎メッセージが放映された後、歴代 AAPA 会長によるラウンドテーブルが行われた。16 日午後、17 日午前に合計 19 の分科会セッションが行われ、研究発表と活発な議論が各教室で展開された。発表テーマは環境問題、公共交通、人事管理、政策分析、AI など技術と公共政策など多岐にわたり、休憩時間にも議論を続ける姿や、参加者同士が連絡先を交換する姿もみ

られた。閉会式ではベストペーパー賞の発表が行われ、フィリピン大学 Ebinezer R. Florano 教授、中国・清華大学大学院生 Yuanyuan Guo・Qingguo Meng 氏、神戸大学砂原庸介教授が表彰された。4年ぶりの対面での開催となった今回の明治大学での国際会議は、コロナ禍を経て各国研究者の対話再開の場を日本が提供できただけでなく、日本の現状に関する研究の英語での発信により、研究の活性化と発信の強化に大きく資する会議となった。

※研究成果の発表・著書、論文、学会報告等（あるいは発表の計画や形式等）

AAPA の開催は、研究大会 HP,学会 HP,明治大学 HP など広く発信された。報告ペーパーについては、Urban Governance, Asian Review of Public Administration 等への研究誌への投稿を推奨していく予定である。

〔注〕 文責は貴研究グループに負っていただきます。個人情報等には十分ご注意ください。

